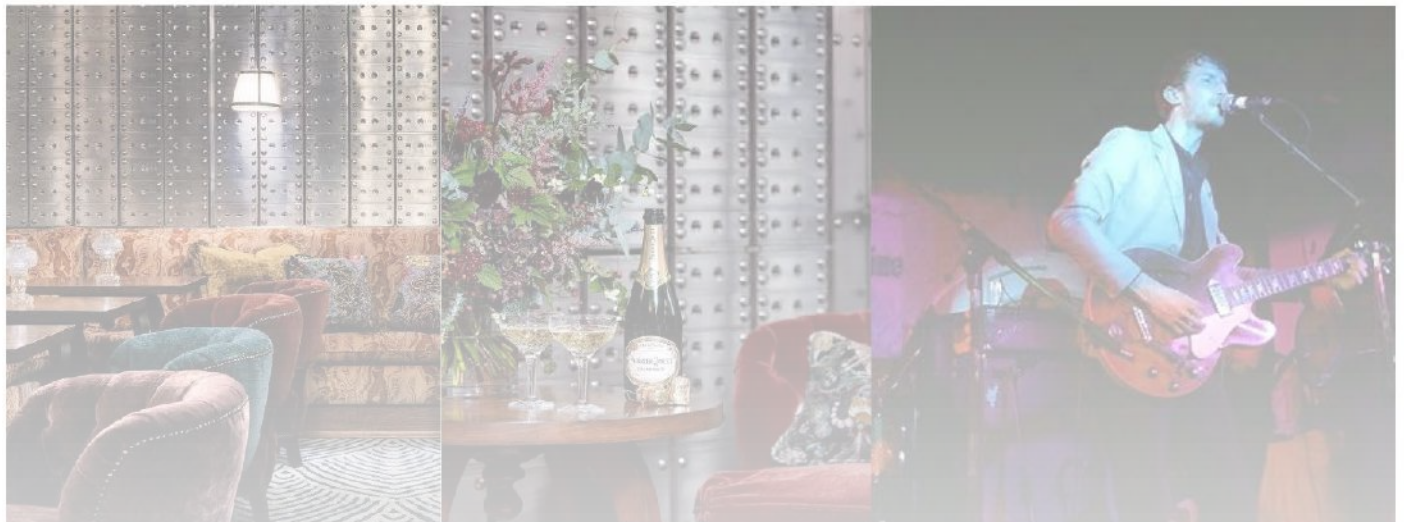


ここを体験するためだけに、ロンドンに訪れてもいいと世界中の酒豪に言わしめる「金庫を改装したバーラウンジ」をご紹介します。自分は決してお酒飲みではないですが、仕事柄、世界中のいろいろなホテルに宿泊する機会に恵まれています。なかでも、ここ数年でダントツのインパクトを受けたのが英国ロンドンのど真ん中 CITY にある「The Ned」でした。世界中の金融の中心、あらゆる銀行マンが集結するシティエリアに位置する 5 つ星のホテルです。ご縁があつて滞在することができたのですが、内外装含めホテルマンのしぐさやマナー、そして宿泊客へのサービスに心を打たれ、とにかく超一流でカッコイイの一言でした。

「元銀行の建物を改装している」とか「客室のインテリアがラグジュアリー」とか、高級ポイントはたくさんありますが（ちなみに歯磨き粉は MARVIS でした）、なんでもあってバーラウンジが圧巻！でも、そんな空間は他にはない、と自信を持ってオススメします。ここで一杯やるためにロンドンに訪れていってさえ感じました。



上の写真が、『The Vault Bar & Lounge』のエンタランスです。お洒落して只事じゃない。それもそのはず、実際に使われていた金庫をそのまま活用しているのです。ですので、ホテルのバーなのに最上階ではなく地下にあります。元銀行ならではの～なのです。こんな映画でしか見たことない……と思っていたら、やっぱり 007 シリーズの撮影で実際に使われていました。なんと、007 シリーズのみならず、ブルース・ウィルス主演の「ダイハード」でもここが撮影現場に使われました。



こちらが中の様子。ちなみにホテルのバーラウンジって、基本的にはリラックスして楽しむ場だと思うのですが、ここはあんまりくつろげませんでした。当然ですが営業中はこんなに明るくないのです。いや、ただ暗いだけなら何も珍しくないのですが、なんせここは銀行の金庫。薄暗い金庫の中って相当イカついんです。ギラギラしたシルバーの壁とかがなんだか怖い……。とはいえ、高級感とは別の次元で緊張感のあるバーでの一杯は貴重な経験でした。自分のような庶民としては、テーマパークのアトラクションのような感じで楽しかったです。

そうそう、こんなにもイケてる店内は写真を撮りたくなるに決まっているのですが、当然ながら NG です。暗くて撮影もできませんでしたので、上の写真は「The Ned」の H/P から借用しちゃいました。お許しください。

この金庫バー『The Vault Bar & Lounge』は、The Ned の宿泊者および Ned's Club の会員のみが利用可能です。

宿泊費は時期にもよりますが、最低 5 万円からといったところ。そこはロンドンを代表する 5 つ星ホテル、仕方ありません。でも、このバーに入れるなら奮発する価値はあると思います。ちなみに、宿泊者でなくともこの扉の前までは行けます。



地上階にあるレストランですが、エッセンシャルホテルを思わせるわけでもなく、普通の通商のような感じで、両サイドにカウンターバーのように広がっています。朝夕に宿泊客だけでなく、CITY 近くバンク（銀行マン）でゴった返していました。また、和食レストランもコーナーにあって、中庭に喫茶コーナーとバー見ファウンターのような趣のあるホテルです。右側上の写真が、こじんまりと構えられた「フロント」で、エレベーターの隅にひっそりとキーボックスを背景に位置付けられていて、通常 5 つ星ホテルのような「フロントが主役」ではなく、「レストランや応接が主役」の構えでした。夕刻 5 時を過ぎますと、ジャズバンドが入り、メロディー演奏というか BGM で商談のムードをやわらげ、8 時以降はそこにマイクが設置されますので、それこそひとつのコンサート会場のように変身します。



The Ned のホテルの正面は、商工会議所と大英帝国銀行本店です。金融界の中心と言われて久しいですが、英国が EU から離脱すると国民選挙で決まってからは、どことなく活気がそがれ街行くバンカーの顔色もさえないように感じます。日本からの駐在員も圧倒的な数値を誇ってきた英国ですが、所得税の高騰や金融の中心が欧州大陸と 2 分化するとあって、労働ビザの頭数こそ変わりませんが、その平均年齢は極端に下がり、いわば「海外金融経験の為の研修所」的なロンドンになっているような感じがします。